

NPO 法人 日本ビオトープ協会  
第15回ビオトープ顕彰受賞作品の紹介

◇顕彰委員会委員長・顕彰事務局長の講評・報告

『ビオトープフォーラム in 静岡 2023』2023年6月23日静岡県男女共同参画センター「あざれあ」にて第15回顕彰を受賞されました団体の方々にお祝い申し上げます。

去る4月13日に顕彰委員長鈴木邦雄代表顧問のもとで、顕彰委員会が開催され、本年度は全国から6団体が選出されました。いずれも特色のある、ビオトープの創成・維持・活用を行っているもので、生物多様性を豊かにする地域貢献、環境活動貢献など優れた取り組みであり高く評価されました。

◎学校ビオトープ大賞を受賞されました、愛知県「どじょりんのビオトープ」は、豊田市立寿恵野小学校のビオトープで、2010年にも応募・受賞されていて、創成されて23年になりますが、近くを流れる矢作川の自然に近い環境が維持されていて、子供たちの自然環境の場として、生物多様性や自然保護の重要性について、近隣の企業やビオトープの専門家と交えて継続的に活動されていて、高い評価となりました。

◎審査委員長賞に選定された、滋賀県「もりビオ」は、旭化成(株)守山製造所のビオトープであり、琵琶湖の水源地としての繋がりを意識し、環境変化に敏感な淡水魚ハリヨと赤とんぼのマイコアカネを指標生物として、企業のみならず、自治会や行政、専門家などとのパートナーシップで生態系の維持保全に取り組むと共に、観察会を通じてモニタリングを行うなど普及啓発を進めていて高く評価されました。

◎CSR特別賞・地域貢献賞ダブル受賞の、静岡県「ビオトープ富士」は、(株)オカムラ富士事業所の、設置されて間もないビオトープですが、会社の環境における理念としてACORN(どんぐり)を掲げる、持続可能な社会への貢献活動の一環であり、事業所の周辺のモウソウチク繁茂のエリアを、多自然な環境へ改変して、従業員や地域住民と共に環境活動の場、環境教育の場、憩いの場を提供していて高く評価されました。

◎環境活動推進賞に選定された、岩手県「大槌町郷土財活用湧水エリア ビオトープ」は、ビオトープとしては未完ではありますが、岩手県沿岸の東日本大津波で甚大な被害を受け、復旧復興に邁進されている中で、数十年前の農薬耐性の無いミズアオイの埋土種子が、大槌町の特徴的な豊富な湧水の中で奇跡的に再生した全国的にも稀有な事例で、現在も継続して産学官、NPO、地元住民などの活動で保護保全が図られていて、この長期にわたる活動を高く評価し致しました。

◎協会会長賞(プロアクティブ活動功労賞)に選定された、富山県「射水市青井谷里山ビオトープ」は、2014年にビオトープ大賞を受賞しておりますが、それ以降もビオトープの増設を行いながら、エコアップを図り、ホクリクサンショウウオの繁殖が見られるなど、希少生物の生態系保護活動を市民提案により、官民協力したまちづくりや子供たちの健全育成に貢献する素晴らしい活動となっていて、今般プロアクティブ活動功労賞を授与して高く評価させて頂きました。

◎CSR特別賞に選定された、愛知県「アイシン辰栄株式会社 幸田工場 ビオトープ」は、かつてはこの地域に棲息していた絶滅危惧種コイ科のウシモツゴに着目して、その生態系を復元するビオトープとして、2018年より継続して保護保全活動を行っていて、復元環境の充実と共に指標とするウシモツゴの繁殖・定着していて、この維持管理や生息調査など従業員の環境意識向上にも貢献していて、高く評価されました。

以上6件表彰させていただきましたが、各団体におかれましては、ビオトープの普及啓蒙、環境教育、地域活性化につながる活動を継続していただくようお願い申し上げます。(協会顕彰事務局長 野澤日出夫)



※フォーラムの顕彰事例発表「どじょりんのビオトープ」「ビオトープ富士」は、後日 YouTube で映像を公開する予定です。詳細は、協会 WEB ページに UP いたします。  
2023年6月28日

## ◇学校ビオトープ大賞

【下記各顕彰書類より転記】

名称	どじょりんのビオトープ
受賞者	豊田市立寿恵野小学校、株式会社鈴鍵
<p><b>【テーマ・概要】</b>          本校ビオトープは、平成12年度、寿恵野小学校の児童のために、豊田東名ライオンズクラブから健全社会形成の一手法として学校ビオトープを寄贈されたものである。学校の近くには矢作川があり、本校のビオトープは地下水を汲み上げ注水されている。完成当時の新聞では、ビオトープの完成度の高さが評価された一方で、ビオトープの敷地面積が狭く、生き物を自然繁殖させることができるか心配を指摘されていた。しかし、令和4年度現在、様々な植物が生い茂るビオトープには、完成当時導入した動物以外にも、トンボやカエル、ハクセキレイなど様々な生き物の姿が見られるようになった。児童たちが放課に遊び、授業で観察する自然観察園となったビオトープは、これからも地域の生き物たちが生息しやすい場所として、馴染んでいくだろう。</p>	
<p><b>【整備方針と管理手法】</b>          ビオトープの整備と管理は、本校教師と児童によって行われている。教員からは、児童の安全を守る観点から、「ビオトープ内で走らない」「木の棒を振り回さない」などのきまりを決めた。また、児童の話し合いで「魚や昆虫をいじめない」「川に石や木を投げられない」などビオトープを保全するためのきまりを定期的に呼び掛けている。また、在来種を守るためのザリガニ駆除や外来種の除草は児童が中心になり、休み時間や授業中に行っている。水車や地下水の汲み上げポンプなどは、業者による点検などを含め、教員と業者で協力して行っている。また、業者や地域の有識者をお願いして、植物の管理方法を学び、児童と一緒に実践し、ビオトープに生き物が住み着く環境を作っている。</p>	
	

## ◇審査委員長賞

名称	もりピオ
受賞者	旭化成株式会社守山製造所、株式会社ラーゴ、琵琶湖博物館、金森自治会湧水公園を守る会
<p><b>【テーマ・概要】</b>          ハリヨ池は、水の循環を考慮し池の底の2箇所から地下水を湧出させる。岸から中央付近にかけて植栽基盤を設置し、U字型の水域にして、水の循環をよくした。水路は池から逸出したハリヨが留まる場所（緩流域、石の配置）と、流水性のトンボの繁殖環境（砂底）を設けた。石や植物の配置を工夫し、繁殖を含め、ハリヨが生活史を全うできるように配慮している。          トンボ湿地は、抽水植物の生えた止水域にした。基本的に雨水で維持するが雨水が少ない場合は、埋設した配管から地下水を供給する。          湿地周辺にはチガヤを植栽し、その他の箇所には草本を育成させ、マイコアカネの生育環境を整えた。</p>	
<p><b>【整備方針と管理手法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>池干しなど、管理しやすいよう大、小の池を設置した。</li> <li>生息環境を再現するため、水深50cm程度の深場や稚魚の生息場となる流れが緩やかな水域を造った。また餌となる底生動物や地域のトンボ類等にも配慮し、これら水生生物の生息に適した浅い湿地を造った。</li> <li>池の底に埋設したパイプから細礫を通じて地下水を湧出させ、湧水環境を再現した。また、植生基盤を用いてU字型の流路を造り、水が滞りにくい構造にした。</li> <li>産卵場所、隠れ場所の確保のため、護岸の一部は石積みとし、池底にも適度に自然石を配置した。また、池の周囲や中央部にはスゲ類等の水生植物を植栽した。植栽苗は地域遺伝子に配慮し、湖東地域産を使用した。スゲ類の様な水面に垂れ下がる植物は、池の水温の上昇防止にも効果的である。</li> </ul>	
	

## ◇CSR 特別賞・地域貢献賞

名称	ビオトープ富士
受賞者	株式会社オカムラ、様株式会社静岡グリーンサービス、株式会社藤浪造園
<p><b>【テーマ・概要】</b>          私たちの企業活動は、自然環境や多くの生物の営みの連鎖によって支えられています。オカムラは持続可能な社会の実現を目指し、これらの環境を守り育てる活動「ACORN」を全社的に実施しております。この度建設を致しました「ビオトープ富士」は、自然との共生をテーマに、事業所の敷地境界となっていた竹林エリアを「憩いの森」「里地」「昆虫の森」「水景」の4つのゾーンにテーマを分けて整備を致しました。憩いの森には小川が流れており、先日も冬の渡り鳥であるオオカワラヒワやジョウビタキなどが羽を休めたり水を飲んだりしておりました。またエリア内には遊歩道やベンチが整備されており、従業員のリラクゼーションの場としても活用されております。</p>	
<p><b>【整備方針と管理手法】</b>          憩いの森ゾーンは小川や池を整備する事により生物の生息環境をより良い物にしております。伐採した竹はエリア境界のフェンスや園路の竹チップとして活用しました。          里地ゾーンは裾野地域の傾斜を活かした里の景観を創出する為「果樹園」をイメージして整備をしました。昨年6月には完成前の園内で労働組合主催の苗木植樹祭も開催しました。          管理の面では、月に一度 施工業者様に入って頂きビオトープエリアの維持作業をお願いしている他、障がい者福祉施設の方にも草取りなどの軽作業を実施頂いております。管理部門である環境保全課でも積極的にビオトープエリアの清掃の実施しており、最近では他部門の従業員も一緒に清掃をしてくれるようになりました。</p>	
	

## ◇環境活動推進賞

名称	大槌町郷土財活用湧水エリア ピオトープ
受賞者	岩手県大槌町、ミズアオイの池をみんなで守る会、岩手県立大学 総合政策学部
<p><b>【テーマ・概要】</b> 大槌町の市街地は、東日本大震災の大津波により壊滅的な被害を受けた。残された自噴井による湿地に、この地が市街化する以前の埋土種子と思われるミズアオイが開花した。岩手県立大学平塚教授（協会顧問）の研究により、除草剤耐性の無い、古い遺伝的形質を持つ株であることが明らかになった。2021年6月に大槌町は、郷土財活用湧水エリアとして、ミズアオイ、イトヨ（海洋系×淡水系）などの保全のための遊水池を創出した。その後、岩手県立大学やピオトープ協会の指導により、住民・県・町・NPOなど多様な参加による「ミズアオイの池をみんなで守る会」（代表曰澤良一氏）を結成し、ピオトープとしての質を高めるための管理運営が行われている。また、この活動は、岩手県立大学総合政策学部の協力により、2023年活動計画がイオン環境財団の助成対象となった。三陸震災復興の自然環境復元活動の一環として今後も取り組んでいく。</p>	
<p><b>【整備方針と管理手法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミズアオイのみならず、多様な生態系を創出する環境へ順次エコアップを図る</li> <li>・ミズアオイピオトープ池周囲への樹木植栽（防風・日陰・林縁植物）</li> <li>・ミズアオイ遊水池の沈下種子攪乱作業（発芽前）</li> <li>・ピオトープ湿地以外のエリアの雑草刈取り作業（農薬不使用）</li> <li>・乾燥が進む隣接エリアへの湧水導水・・湿地エリアの拡張</li> <li>・「ミズアオイの池を守る会」会員へのミズアオイについて理解を進める講話</li> <li>・上記一環での「ミズアオイ試食会」開催（ミズアオイピオトープの認知度向上策）</li> <li>・町民・町当局・県立大槌高校・東京大学国際沿岸海洋研究センターなどとの連携による持続可能な管理体制（ミズアオイの池を守る会活動レベル向上）</li> <li>・町民の癒しの場、幼稚園児・小中学生の環境教育と遊びの場創出</li> </ul>	
	

## ◇協会会長賞（プロアクティブ活動功労賞）

名称	射水市青井谷里山ピオトープ
受賞者	NPO 法人自然環境ネットワーク・射水ピオトープ協会、株式会社久郷一樹園
<p><b>【テーマ・概要】</b> 過疎化が進み、耕作放棄地や休耕地が増え、侵入竹や外来生物（セイタカアワダチソウ）などの繁茂により急速に失われつつあった里山にピオトープを築造し、従来生息していたホタルやモリアオガエル・サンショウウオ等の貴重種を始めとする多くの在来生物の保全を図ると共に、そのピオトープを拠点として多くの生物や自然と触れ合う事業を行い、一方で里山のコミュニティーの復活と推進を図り、近隣の子供達の健全育成を図る環境教育の場としても広く活用している。又、生物多様性・生態系の理念を啓発し地域住民や関係団体と共に希少動植物・地域在来動植物・絶滅危惧種の保全を図ると共に、人口減少による過疎化や高齢化の進行による里山の生物多様性の衰退を防ぎ、数々の自然観察会や研修会・環境セミナー・シンポジウム・講演会を開催し地域の活性化にも大きく貢献している。</p>	
<p><b>【整備方針と管理手法】</b> 平成25年に地元射水市の公募提案型市民協働事業に「生物多様性保全型里山ピオトープの形成に関する事業」として提案し、採択された後は、多自然型ピオトープ池を築造し毎度里山保全・整備事業として周辺の竹林伐採や除草管理・枯枝や下枝処理等の維持管理作業に取り組んでいる。 又、令和4年に同じく射水市の公募提案型市民協働事業に「射水丘陵における『人間の営みと野生動物（特に両生類）の共生』を促進する事業」を提案し採択された。以下がその具体的な活動方針である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 野生生物の保全に関する事業 1. 両生類（ホクリクサンショウウオ・アカハライモリ・クロサンショウウオ・トノサマガエル）魚類（淡水魚）生息地及餌場の確保 2. 同上の産卵地の確保 3. 同上の生息地と産卵地を結ぶ回廊を整備</li> <li>● 里山の魅力・生物多様性の理念を発信する事業 1. 生物の生息調査・産卵調査 2. 自然観察会・自然環境セミナー等の開催 3. 植樹・侵入竹の伐採やチップ化等の里山体験 4. 巣箱づくり・竹細工づくり等のワークショップの開催 5. 水生昆虫調査・観察会等の自然に親しむ行事 6. 里山ピオトープフォーラムの開催他</li> </ul>	
	

## ◇CSR 特別賞

名称	アイシン辰栄株式会社 幸田工場 ピオトープ
受賞者	アイシン辰栄株式会社、株式会社エイディーグリーン
<p><b>【テーマ・概要】</b> このピオトープでは絶滅危惧種の水生生物を保護していくことを目的として整備した。保護する水生生物は、愛知県碧南市にある碧南海浜水族館殿へ相談しウシモツゴという魚を保護することと決定し放流を開始した。このウシモツゴは、もともとは幸田工場周辺に生息していた種であったが、土地開発等の影響を危惧して1992年から碧南海浜水族館殿で保護していた魚で、現在西尾市では野生種は絶滅してしまっていた。今回の活動によりウシモツゴが25年ぶりに里帰りを果たすことができた。</p>	
<p><b>【整備方針と管理手法】</b> ウシモツゴ保護を目的とした小川や池を設置し、その他多様な生物や植物が生息しやすい様、湿地帯を設けるなどして環境の整備を行った。また使用する水は浄化槽の処理水を再利用し、水の有効活用を図った。 管理面においては、定期的に草刈り、池の水抜き等のメンテナンスを実施し、生き物や植物が生息しやすい環境維持に努めている。また年1回、専門家によるピオトープ内の生態調査を実施し管理状況を把握するとともに、従業員向けに生物多様性取組み紹介や在来種と外来種の区別方法などの勉強会を定期的実施している。</p>	
	